

住みよい小山をつくる会 第10回企画会議 議事概要

日時：平成18年12月7日（木） 午後7時～9時

会場：小山公民館 中会議室

1 アンケートの集計・分析結果の報告

基地跡地利用ワーキングより集計・分析結果をまとめた資料を参照して、次のとおり報告が行われた。

- ・希望が多かった公園・広場、文化、商業、体育、福祉施設の評価をどう考えるか。これに関連した自由意見では望まないという意見もかなりある。最も多かった公園・広場に対して防犯、安全の面で心配する意見があり、また商業施設では、賛否両論があった。文化施設については全体に賛成の意見が多いが、一部の人のみ使用できる施設はよくないという意見もある。コミュニティ施設と行政施設を一緒にして意見を書いている人もいる
- ・Q2では8割近くが公園を希望しているが、設問1の15haの選択肢が先にきているため、設問2も含めて公園を回答する傾向がある。
- ・コンセプト案については、駅前仅此だけの更地があるのは珍しいので、この広いスペースを生かした公園・緑・広場にしたい。合併して大きくなった相模原市のへそとして、70万都市の中心「さがみはら」としてふさわしい施設を整備する。という2つの案。またとを足すという案もある。これはの市全体として有意義な施設のなかに、の公園・緑を配置するという考え方である。

2 コンセプト案の検討

<主な意見>

- ・35haもやがて返還されることを見通して、そこは公園と緑で考え、駅前の15haは施設整備を主として、施設の間に公園と緑を配置するという考えはどうか。
- ・中学校の希望が多い。
- ・地元、小山の住民の要望を市はできるだけ尊重してほしい。他の地域の人は跡地利用への関心が低い。
- ・小山住民の声といっても、市の税金で施設をつくるわけだから、市全体の視点でも考えないといけない。地域と市全体の2つの視点から、市役所、多目的ホール、公民館は考えている。
- ・これだけの人口を要する都市の真ん中にある基地という特殊性を考えなくてはいけないのではないか。
- ・15haと35haの違いが分からないままに回答して、公園・広場に流れた人が多いという分析もある。建物は一切いらぬという少数意見もある。このあたりをどのように考えるか。
- ・来年、合併で70万人を超え、政令指定都市への移行の可能性もあるなかで、現在の市役所では狭くなる。大きな行政施設が必要になることに加え、津久井地域のから来る人などは、現在の市庁舎の場所では駅から離れていて不便。やはり駅前に役所が必要だと思う。
- ・相模大野、橋本が良くなっていくのに比べ、相模原駅前の商店街は厳しい状況。中心となる行政施設、商業施設を望む。
- ・小山としては最低限、公民館とコミュニティ施設を絶対にほしい施設として確保し、そのうえで市全体を考えた施設をいれる。
- ・15haについては、市全体の視点と、小山に必要な施設という視点を合わせて考える。公園・広場は35haで考えてはどうか。
- ・駅前という地の利を考えた施設を入れる。

- ・ワーキングでは配慮してもらいたい事項として、基地の脇を通過して向陽小に通学する子どもがいることから、商業や歡樂的な施設が入ってくるときは、通学路の確保を望む意見があった。
- ・相模原駅は市の中心としてメインになる施設が必要。
- ・今の市役所はまわりに県や国の施設などもあるので、駅前には分館的なものがないのでは。
- ・商業施設は小田急頼みでなく、まず地元で考えるべきだ。
- ・市全体の中心となる施設として、たとえば行政施設の大半を駅前にもってくる。
- ・基地返還によって、片肺だった駅前の商業圏が両肺になって3~5キロに広がる。立川線が復活すれば町田から客を呼べる。
- ・町田や多摩センターの客も集められるような施設をつくる。
- ・15haにも公園を入れるという意見が多い。
- ・大きな施設が入れば、オープンスペースが必要になるので、いずれにしても緑、公園が入る。
- ・今の市民会館のような文化的要素のある多目的ホールを建てる。
- ・駅前には、東京でいえば丸の内。全国に誇れる施設、大ホールをつくる。
- ・多目的ホールは市役所と公民館の中間的なもの、市民が集まれる文化施設として位置づける

コンセプト案は と の案を統合し、本日出された意見を加味して全体会に提案する。具体的な例示としては商業施設、多目的ホールなどの文化施設、公民館などのコミュニティ施設及び市役所などの行政施設など。返還される施設15ヘクタールの施設の間をオープンスペースとして公園・緑地にする。

3 第4回全体会の進め方の検討

全体会を話し合える場にするためにグループワークで意見を引き出す。コンセプト案の検討と意見出し、案の修正を行う。

4 今後の進め方の検討

<スケジュール>

次回全体会は12月17日(日)、次回企画会議は1月中旬にする。

<広報など>

- ・基地返還に関することを広く小山地域の住民に広報することについてとして、小田急に協力を求められないか。境川クリーンアップ作戦のごみ拾いでは、小田急にティッシュやグッズなどを提供してもらい広報した。
- ・今回も小田急にグッズの提供などで協力を求めたい。
- ・地域への説明会をするときに、ブースの設置などで小田急に協力を呼びかけたい。
- ・アンケートの結果を地域に知らせるために、自治会連合会の自治会便りで1面に載せたい。

跡地利用の広報について小田急の協力を求める交渉を行う。

自治連合会便りにアンケート結果を掲載し、回覧する。